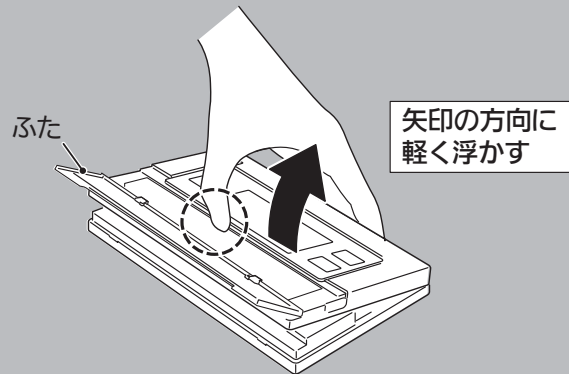
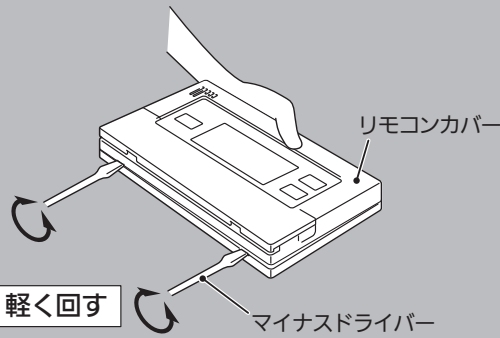


浴室リモコンカバーの外し方(必ずお読みください)

1. マイナスドライバーを下図のように差し込み、軽く回す(2カ所)

2. リモコンふたを開き、リモコンカバー中央部を軽く浮かす



- 【お願い】 ●無理にこじ開けないでください。ケースのツメが折れるおそれがあります。
- 保護フィルムを外してからカバーを外してください。
 - カバー下側以外をドライバー等でこじ開けないでください。破損のおそれがあります。



電気給湯機用

リモコンセット			サブリモコン			給湯専用リモコン		
浴室リモコン	タイプ	形名	形名コード	形名	形名コード	形名	形名コード	<ul style="list-style-type: none"> ●リモコンを使用しないと給湯機のわき上げが行えません。 ●リモコンは当社電気給湯機専用です。 ●適用機種は、当社カタログ・貯湯ユニットに付属の据付工事説明書などに記載しております。
台所リモコン	インターホン	RMCB-H3SE	58S003	RMCB-KZ3	51Z008	RMCB-N3	68E035	
	ベーシック	RMCB-D3SE	51Z007					
		RMCB-B3SE	68E036					

据付工事説明書 販売店・工事店様用

この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい工事が必要です。工事の前に、この「据付工事説明書」を必ずお読みください。この説明書に記載されていない方法や保証書と適合しない内容で工事された場合、また、当社指定部品を使用せず工事された場合、事故や故障が生じたときには責任を負いかねます。

安全のために必ずお守りください



注意

誤った取扱いをしたときに、軽傷または家屋・家財などの損害に結びつきます。



必ず電源ブレーカーを「切」にしてから行う
感電の原因になります。

指示に従う

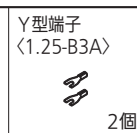
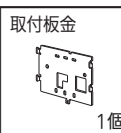
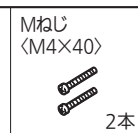
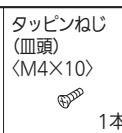


板金の端面に注意する
けがの原因になります。

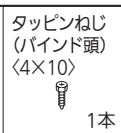
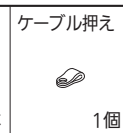
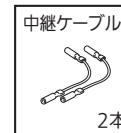
指示に従う

1. 付属品の確認

①浴室リモコン ②台所リモコン、給湯専用リモコン、サブリモコン



サブリモコンのみ



※サブリモコン(RMCB-KZ3)は上記部品が加わります。

2. 工事に必要な工具、部材

● 工事前に準備ください。

○:必要 - :不要

○:必須 △:必要に応じて使用 - :不要

工具	リモコン		市販品、注意事項等
	浴室	左記以外(※1)	
Y型端子用圧着工具	-	○	日本圧着端子製造株式会社製 YHT-2210(JIS C9711規格品)
接続端子用圧着工具	○	○	日本圧着端子製造株式会社製 YNT-2216
ドライバー(+ 2番)	○	○	電気ドライバー及びインパクトドライバーなどは使用禁止です。
ドライバー(-)	○	-	

部材	リモコン		当社別売部品形名
	浴室	左記以外(※1)	
リモコン線 ※2	○	○	LM-620BまたはLM-650B
シリコン系シーリング剤	○	-	市販品
リモコン壁貫通パイプ	△	-	GT-5SEKPA
補強用木片	△	-	市販品
圧着端子	△	△	市販品
PF管 φ16	○	○	市販品
オールプラグ ※3	△	△	市販品

※1. 台所、給湯専用、サブリモコン ※2. リモコン線は、当社別売部品(形名: LM-620BまたはLM-650B)を設置条件に合わせて切断してご使用ください。
 ※3. 許容引張力 0.9kN/本 以上のプラグをご使用ください。

3. 接続概要図

●貯湯ユニットへの接続は、貯湯ユニットに付属の据付工事説明書をご覧ください。

リモコン接続概要図

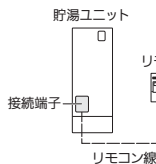
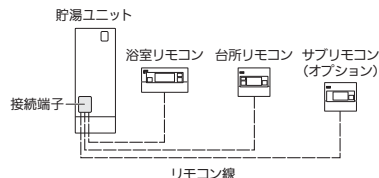
●必ず、貯湯ユニットから各リモコンまでの配線長を50m以内としてください。

〈追いだしフルオート、エコオート〉

※本体1台に複数の浴室リモコン及び複数の台所リモコンは、接続できません。また、サブリモコンは1台のみ接続可能です。

〈給湯専用〉

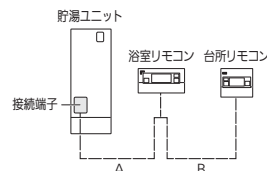
※本体1台に複数のリモコンは接続できません。
※サブリモコンは接続できません。



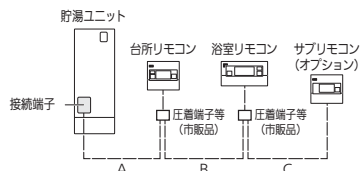
渡り配線を行う場合の接続概要図(必ず下記に従ってください。)

- 必ず、貯湯ユニットから各リモコンまでの配線長(A+B+C)を50m以内としてください。
- 浴室リモコンの接続端子を使用して共カシメを行う場合は、リモコン線の断面積を0.3mm²としてください。断面積が0.3mm²以上の場合は、適合する接続端子(市販品)をご使用ください。
- 接続例2で配線する場合、台所リモコン端子台への端子の共締めは行わないでください。圧着端子を使用し、1線にまとめて接続してください。

接続例1(渡り配線時 当社推奨接続)



接続例2



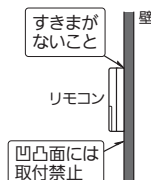
4. 取付場所の選定

共通事項	<ul style="list-style-type: none"> ●必ず平らな壁面に取り付けてください。(凹凸があるとリモコンが変形して誤動作することがあります。) ●リモコン線の長さには制限があります。接続概要図(3項)を参照し、設置場所を選定してください。
台所リモコン 給湯専用リモコン サブリモコン	<ul style="list-style-type: none"> ●必ず屋内に取り付けてください。防水タイプではありません。 ●取付位置はスイッチ操作が容易にでき、表示が良く見えるところ(目の位置より少し下側)を選んでください。 ●無線タイプのドアホン親機に隣接し設置すると、インターホン使用時にノイズ音を発することがありますので、無線タイプのドアホン親機より50cm以上離して設置いただくことをおすすめします。 ●下記の場所には取り付けないでください。 <ul style="list-style-type: none"> ○ガステーブルの近くなど高温(45℃以上)になるところ ○湿気の多いところ ○直射日光のあたるところ ○湯気、水しぶきや油のかかるところ(防水タイプではありません。) ○幼児の手が届くところ
浴室リモコン	<ul style="list-style-type: none"> ●できるだけ湯や水がかかりにくい場所に取り付けてください。(設置場所の壁裏側は蒸気がかかるような場所、湿気が多い場所をさけてください。) ●取付位置は浴室内のスイッチ操作が容易にでき、表示が良く見えるところ(入浴中の目の位置)を選んでください。

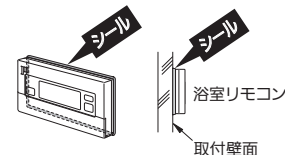
5. 施工上のお願い

- リモコン本体を分解しないでください。
- リモコンを直接砂の上や鉄くずのある床の上におかないでください。スピーカー部(左上)に鉄粉等が付着し、音が出なくなります。
- サブリモコンの単一使用はできません。
- リモコンと壁の間にすきまがないように取り付けてください。〈図1〉
- リモコン線が短絡しないように施工してください。
- リモコン線は、周囲の熱による劣化を防ぐため、高温部に触れたり、熱の影響を受けたりしないところに配線してください。
- リモコン線をコンクリートなどに埋め込む場合には、電線管(PF管など)に収め、リモコン線が傷つかないようにしてください。
- リモコン線を配線する際は、取付板金の金属端面に注意してください。
- 既設のリモコン線を使用する場合、当社別売リモコンケーブル相当品(2芯式、0.3~1.65mm²、67.6Ω/km以下)としてください。2芯式以外のケーブルの場合、誤動作の原因になります。
- リモコン線を接続後、過度にリモコン線を引っばらないでください。(リモコンやリモコン線が破損するおそれがあります。)
- Y型端子及び接続端子をカシメるときは、必ず当社指定の圧着工具を使用してください。また、圧着(接続)時は、引張強度35.6N以上を圧着後に確認してください。その際、リモコン本体に負荷がかからないようにしてください。
- リモコンをねじで固定する際、電気ドライバー、インパクトドライバーなどは使用しないでください。破損のおそれがあります。
- 壁に穴を開けて設置する場合、穴端部の凹凸をならし、石膏ボードくず等をきれいに取り除いてからリモコンを設置してください。
- 浴室リモコンと浴室壁面のすきまは必ず全周にわたり、シリコン系シーリング剤で十分にシールしてください。水や蒸気が浸入し、故障するおそれがあります。〈図2〉
- コンクリート壁面の溝やタイル目地など、壁面にパッキンシールに適合しない凹凸がある場合は斜線部をシリコン系シーリング剤で平らにしてください。〈図3〉
- 既設のリモコン線を使用する場合は、必ず断線していないことを確認して配線してください。

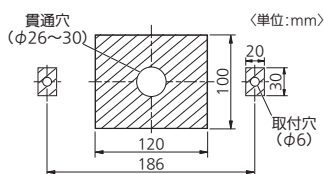
〈図1〉



〈図2〉



〈図3〉

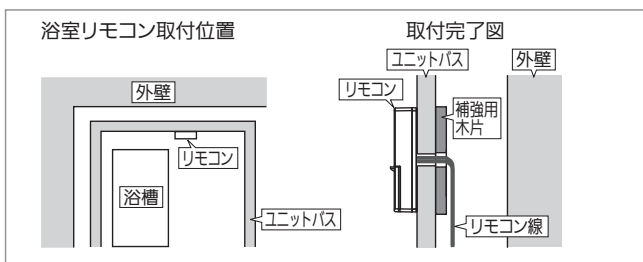


6. こんなとき

症状	確認	処置
リモコンに「H01」エラーが表示	リモコン形名を確認	機種(タンク)に応じたリモコンに交換
	貯湯ユニットに200V電源が供給されているか	200Vに交換
	台所リモコンにドライバー等差し込まなかったか	台所リモコン交換
	貯湯ユニットの電源を「切」にしてリモコン接続を行なったか	電源を「切」にしてから接続
	リモコン線に電源(DC12V)が供給されているか	リモコン線を50m以下、及び圧着部を確実にカシメる
リモコンの電源が入らない(表示がつかない)	他の電源線と離して配線しているか	他の電源線から5cm以上離す
	リモコン線の圧着は確実か	接続端子を確実にカシメる
	リモコン線に電源(DC12V)が供給されているか	リモコン線が断線している場合は交換または修復
	貯湯ユニットに電源が入っているか	貯湯ユニットの電源を入れる
	台所リモコンにドライバー等差し込まなかったか	台所リモコン交換
リモコン線が断線していないか	リモコン線が断線している場合は交換または修復	

7. 浴室リモコン取付工事

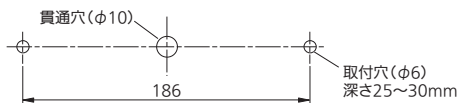
ユニットバスに取り付ける場合(壁内配線)



1

取付準備

- ①壁面の凹凸をなくす
※施工上のお願(5項)を参照してください。
- ②リモコン線用貫通穴(φ10mm)、リモコン取付穴(φ6mm、2カ所)をあけ、室内側からリモコン線を通しておく



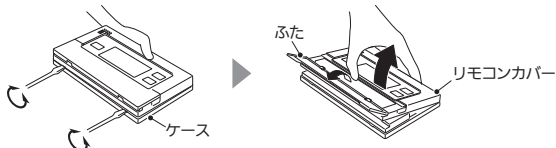
※壁パネルに取り付ける場合は、裏側に補強用の木片(現地調達品)を取り付けてください。木片にはリモコン線用貫通穴(φ12mm)とリモコン取付穴(φ3mm、2カ所)をあけ、接着剤などで壁裏面に付けます。

補強用木片参考寸法図

2

リモコンカバーを取り外す

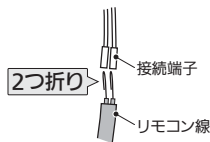
- ①保護フィルムを外す
※再使用しますので捨てないでください。
- ②マイナスドライバーでケースのツメ(2カ所)を外す
- ③リモコンカバーをケースから外す
※ふたを開け、リモコンカバー中央部を軽く引き上げてください。



3

リモコン線の芯線を2つ折りにして、接続端子に圧着する

※リモコン線の圧着(接続)時は、引張強度35.6N以上を圧着後に確認してください。その際、リモコン本体に負荷がかからないようにしてください。



施工未完了時の通電は、故障のおそれがあります。
4項以降は、給湯機試運転の給水完了後に実施してください。

4

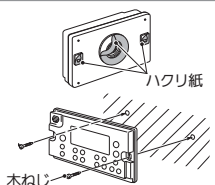
貯湯ユニットの電源を入れ、リモコン本体の動作確認後、再度貯湯ユニットの電源を切る

※画面の表示、バックライトの点灯、音声ガイダンスを確認してください。必ず、リモコン固定(5項)前に実施してください。リモコン線施工不良の症状がある場合は、手直ししてください。

5

リモコンの固定

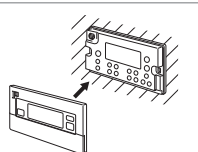
- ①パッキンのハクリ紙(3カ所)をはがし、リモコンを仮取付する
- ②リモコンケースを付属の木ねじ2本で壁に固定する



6

リモコンカバーを取り付ける(上部をかぶせた後、下部を押し込む順で行うと正しく取り付けます。)

※リモコンカバー取付後、手順2で外した保護フィルムを表示面にキズやほこりにつかないように貼ってください。

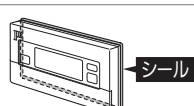


7

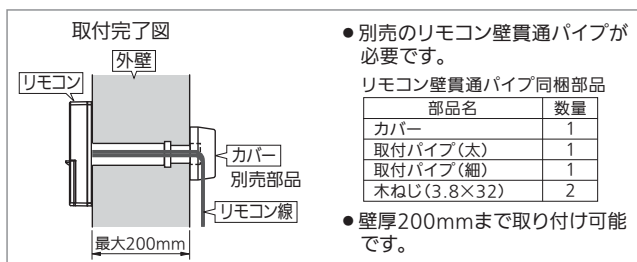
リモコン全周をシールする

水がリモコンの裏に入らないようシリコーン系シーリング剤を使って、浴室リモコン全周にシールする

※水や蒸気が浸入し、故障するおそれがあります。



コンクリート、タイルなどの壁に取り付ける場合(壁貫通)



●別売のリモコン壁貫通パイプが必要です。

リモコン壁貫通パイプ同梱部品

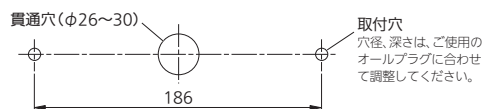
部品名	数量
カバー	1
取付パイプ(太)	1
取付パイプ(細)	1
木ねじ(3.8×32)	2

●壁厚200mmまで取り付け可能です。

1

取付準備

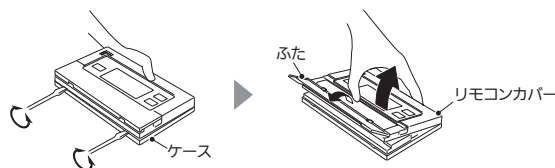
- ①壁面の凹凸をなくす
※施工上のお願(5項)を参照してください。
- ②貫通穴(φ26~30mm)、オールプラグ取付穴(2カ所)をあけ、オールプラグを打ち込む



2

リモコンカバーを取り外す

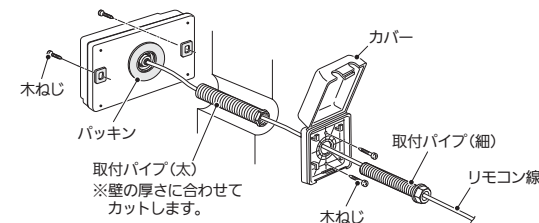
- ①保護フィルムを外す
※再使用しますので捨てないでください。
- ②マイナスドライバーでケースのツメ(2カ所)を外す
- ③リモコンカバーをケースから外す
※ふたを開け、リモコンカバー中央部を軽く引き上げてください。



3

リモコン、カバーの固定

- ①取付パイプ(太)へリモコン線を通してリモコンにねじ込む
- ②パッキンのハクリ紙(3カ所)をはがし、リモコンを仮取付する
- ③リモコンを木ねじ2本で壁に固定する
- ④カバー、取付パイプ(細)にリモコン線を通し、取付パイプ(細)をねじ込み、カバーを木ねじ2本で固定する

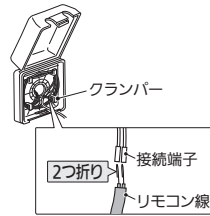


4

リモコン線の接続

- ①リモコン線の芯線を2つ折りにして、接続端子に圧着する
- ②接続部がカバーの内側になるように、クランパーにリモコン線を巻き付けてカバーのふたをする

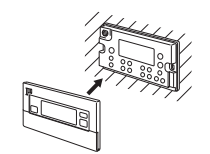
※リモコン線の圧着(接続)時は、引張強度35.6N以上を圧着後に確認してください。その際、リモコン本体に負荷がかからないようにしてください。



5

リモコンカバーを取り付ける(上部をかぶせた後、下部を押し込む順で行うと正しく取り付けます。)

※リモコンカバー取付後、手順2で外した保護フィルムを表示面にキズやほこりにつかないように貼ってください。

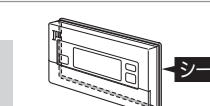


6

リモコン全周をシールする

水がリモコンの裏に入らないようシリコーン系シーリング剤を使って、浴室リモコン全周にシールする

※水や蒸気が浸入し、故障するおそれがあります。



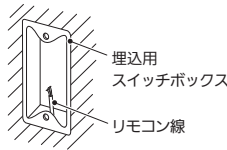
8. 台所リモコン、給湯専用リモコン、サブリモコン取付工事

リモコン線を壁中に通す場合(埋込配線)

1

取付準備

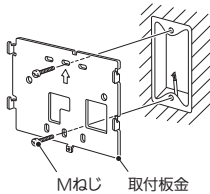
- ①リモコン取付位置に埋込用スイッチボックス(1個用)を取り付けておく
- ②リモコン線を電線管を通し、貯湯ユニットまで配線しておく



2

取付板金を付属のMねじ2本で埋込用スイッチボックスに固定する

※「合」が上になるように取り付けてください。



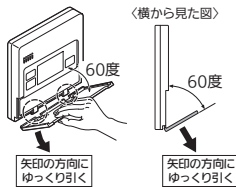
3

リモコンのふたを外す

ふたの中央部の根元を持ち、およそ60度にふたを開き、両方のツメに均等に力が加わるよう、ふたの面に対して矢印の方向にゆっくり引く

※無理に引っばるとツメが折れる場合があります。ゆっくり注意して外してください。

※台所リモコンは、ドライバー等でこじ開けないでください。故障するおそれがあります。



4

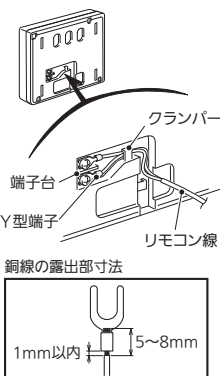
埋込用スイッチボックスから出ているリモコン線を付属のY型端子に圧着して、クランパー(1カ所)に固定後、端子台にねじ止めする

※締付基準トルク:0.61~0.82N・m

※リモコン線の圧着(接続)時は、引張強度35.6N以上を圧着後に確認してください。

※銅線の露出部は、図にしたがってください。リモコン線が短絡した状態で通電すると、リモコンが故障するおそれがあります。

※リモコン線は必ずクランパーで固定してください。取付板金にかみ込み、断線のおそれがあります。



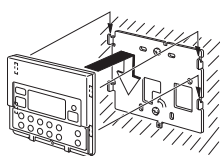
5

リモコンを取付板金に取り付ける

※取付板金の金属端面に注意して配線してください。

※取付場所によっては、多少がたつきがあります。

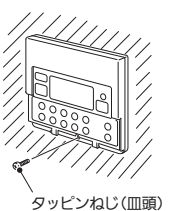
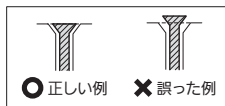
※取付が正しくないと次の手順6でねじを挿入できません。



6

タッピンねじ(皿頭)で固定する

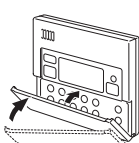
※ねじ頭がとび出さないようにしてください。



7

リモコンのふたをパチンとなるように取り付ける

※取付後、ふたが開閉できることを確認してください。

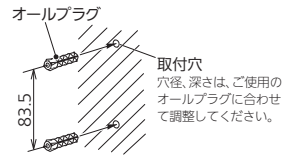


壁面に取り付ける場合(露出配線)

1

取付準備

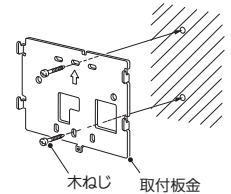
- 壁がコンクリートブロックなどの場合は、オールプラグ取付穴(2カ所)をあけ、オールプラグを打ち込んでおく



2

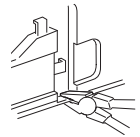
取付板金を付属の木ねじ2本で壁面に固定する

※「合」が上になるように取り付けてください。



3

配線出口をニッパーなどで切り欠く



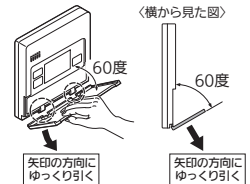
4

リモコンのふたを外す

ふたの中央部の根元を持ち、およそ60度にふたを開き、両方のツメに均等に力が加わるよう、ふたの面に対して矢印の方向にゆっくり引く

※無理に引っばるとツメが折れる場合があります。ゆっくり注意して外してください。

※台所リモコンは、ドライバー等でこじ開けないでください。故障するおそれがあります。



5

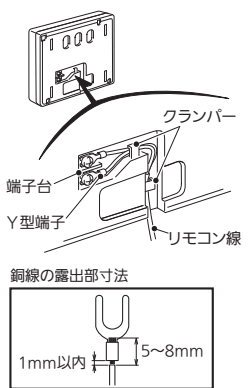
リモコン線を付属のY型端子に圧着して、クランパー(2カ所)に固定後、端子台にねじ止めする

※締付基準トルク:0.61~0.82N・m

※リモコン線の圧着(接続)時は、引張強度35.6N以上を圧着後に確認してください。

※銅線の露出部は、図にしたがってください。リモコン線が短絡した状態で通電すると、リモコンが故障するおそれがあります。

※リモコン線は必ずクランパー(2カ所)で固定してください。断線のおそれがあります。



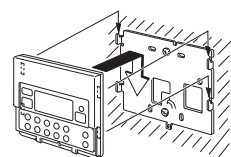
6

リモコンを取付板金に取り付ける

※取付板金の金属端面に注意して配線してください。

※取付場所によっては、多少がたつきがあります。

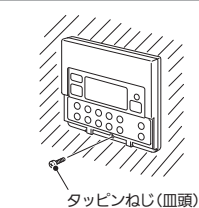
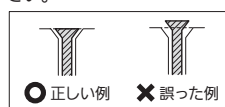
※取付が正しくないと次の手順7でねじを挿入できません。



7

タッピンねじ(皿頭)で固定する

※ねじ頭がとび出さないようにしてください。



8

リモコンのふたをパチンとなるように取り付け、リモコン線を壁に固定して配線する

※取付後、ふたが開閉できることを確認してください。

